

沿革

明治28(1895)年～

下村武一郎、鳥居龍三らによる報告

昭和6(1931)年7月31日 史跡指定

昭和27(1952)年

史跡指定地内中央部で縄文時代晩期の埋葬人骨出土

昭和40(1965)・41(1966)・45(1970)年度、平成16(2004)年度

史跡指定地隣接地での範囲確認調査

主な遺構

縄文時代早期～晩期にかけての貝層

縄文時代晩期のサルの橈骨製の耳飾りをした伸展葬の

埋葬人骨(昭和27(1952)年調査)

縄文時代晩期の土坑墓(平成16(2004)年調査)

主な出土品

縄文時代早期～晩期の土器

石製品(石鏃、石錘、石斧、磨石、石皿など)

骨角器(へら、根バサミ、ヤスなど)

装飾品(サルの橈骨製耳飾り、玉類)

人骨、貝殻、魚骨、動物骨ほか



約7000年前の鳴神貝塚周辺の地形と縄文遺跡

ACCESS

- JR和歌山駅東口：和歌山バス「紀伊風土記の丘」行き「花山」下車、徒歩5分
- 阪和自動車道：和歌山ICから南西方向へ約1km、花山交差点左折して200m

お問い合わせ先

和歌山市教育委員会 文化振興課

和歌山市七番丁23番地 TEL:073-435-1194 FAX:073-435-1294

関連施設

鳴神貝塚出土品及び関連資料については以下の施設で展示されている場合があります。見学の際には事前に各施設にお問い合わせください。

和歌山市立博物館 和歌山市湊本町3-2 TEL:073-423-0003

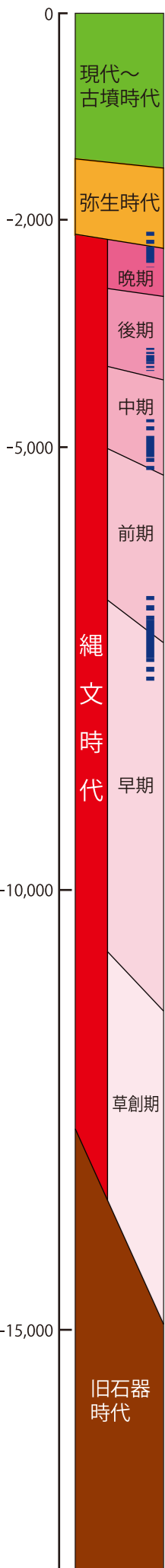
和歌山県立紀伊風土記の丘 和歌山市岩橋1411 TEL:073-471-6123

和歌山県立博物館 和歌山市吹上1丁目4-14 TEL:073-436-8670

国指定史跡 なるかみかいづか 鳴神貝塚



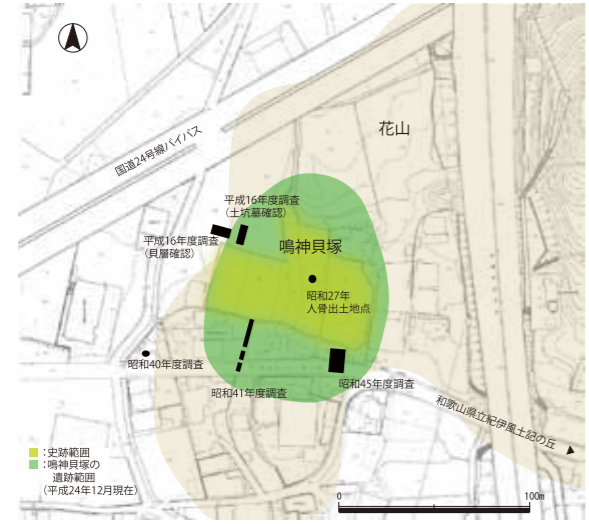
貝層断面(平成16年度調査)



概要

鳴神貝塚は紀ノ川の左岸、和歌山平野の中央部にある花山西麓に位置します。明治28(1895)年に近畿地方で初めて発見された貝塚として、昭和6(1931)年に国の史跡に指定されました。貝層の範囲は東西130m、南北100m(平成24(2012)年12月現在)におよび、県内最大級の規模を誇ります。

その後の調査(昭和27(1952)年、昭和40(1965)～41(1966)年度、45(1970)年度、平成16(2004)年度)の結果、人骨の埋葬された土坑や、縄文時代早期の貝層、縄文時代早期～晩期の土器を含む包含層を確認したことから、鳴神貝塚は縄文時代早期～晩期にかけて断続的に存続した縄文時代の集落遺跡の一部であると考えられます。



土器とそのほかの道具

貝塚からは縄文時代の早期から晩期にわたる土器が出土しています。また、土器のほかにも石鏃(矢じり)、石錘(おもり)、磨石、石皿などの石製品、シカなどの骨でつくられたへらや根バサミ、エイの尾鰭でつくられたヤス等の骨角器なども出土しています。

また、これらの出土品のなかには東海系の土器のほか、石鏃や削器(ナイフ)等に用いられたサヌカイトという石材など遠方から運ばれてきたものも出土しています。



骨角器
(左：へら
右上：根バサミ
右下：ヤス)



石製品
(左：削器 中央：磨製石斧 右：石鏃)

トピックス～鳴神貝塚の縄文土器～
鳴神貝塚からは、貝殻などで表面を整えて、竹のような細い管で文様を付けた早期末～前期初頭頃の土器や、表面に縄文を転がし、その上に連続的に爪型文様を押した中期の土器、貝殻などで表面を磨いたり、削ったりし、粘土紐を貼りつけて文様とする晩期の土器が出土しています。

鳴神貝塚の縄文人の食生活

貝層からは主体となるハマグリのほか、ヤマトシジミやマガキ、ハイガイ等の貝殻、タイ科やアジ科、エイ、サメ類等の魚骨類、シカやイノシシ、サル等の動物骨などの食物残渣(食べカス)が出土しています。

また、石皿や磨石、敲石が出土していることから、ドングリ等の堅果類も食べていたことが判明しています。

これらの出土遺物から、鳴神貝塚の人々は高カロリーな植物性タンパク源と、魚貝類や鳥獣を組み合わせる多様な食生活をおくっていたものと考えられます。



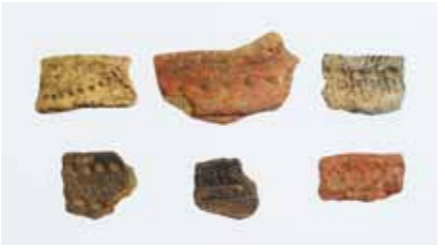
左上：アカヒメ
左中：ハマグリ
左下：ヤマトシジミ
右上：マガキ
右下：ハイガイ



動物骨類 (左上：イノシシ、左下：サル、右上：シカ、右下：鳥類)



縄文時代早期～前期の土器 (左上：東海系の土器)



縄文時代中期の土器



縄文時代晩期の土器(深鉢)



石皿



石錘



敲石・磨石



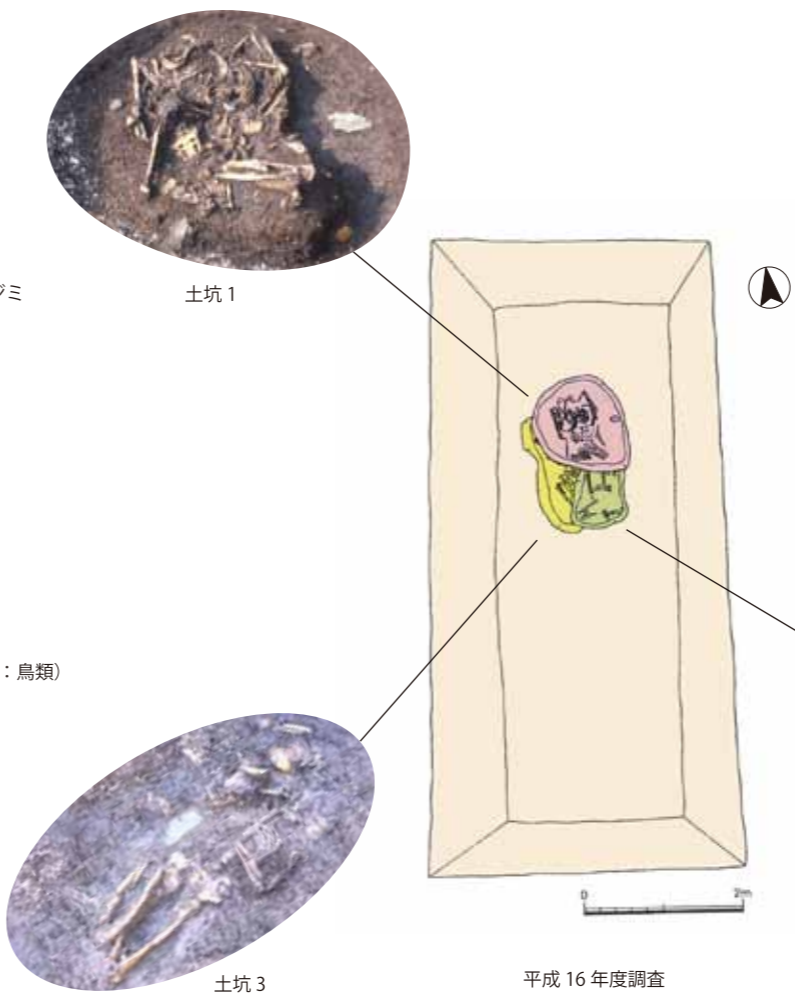
石英製磨石

鳴神貝塚に葬られた人々

鳴神貝塚からは埋葬された人骨が発見されています。

昭和27(1952)年に史跡指定地内で発見された手足を伸ばした状態(伸展葬)で埋葬された女性の人骨は、上顎の犬歯2本を抜歯し、サルの橈骨製(前腕の骨)の耳飾りをしていたことから、シャーマンであった可能性が考えられます。

また、平成16(2004)年度の調査では、足を折り曲げた状態(屈葬)で土坑に埋葬された人骨が見つっています。特に、土坑1に埋葬された女性人骨は中央の子供の人骨を抱くように埋葬されていたことから、子供ときわめて近い関係にある人物であったと考えられます。



昭和27年に史跡指定地内で発見された埋葬人骨(白い紙の上はサルの橈骨製の耳飾り)(羯磨正信氏撮影)



土坑2(平成16年度調査)に埋葬された女性の復顔



土坑2

用語解説

貝塚
貝殻や動物の骨、生活用具などが捨てられ、堆積した当時の人々のいわゆるゴミ捨て場。

シャーマン
神がかりをして、予言や治療を行う特別な能力を持った人のこと。祭祀の場では中心的な役割をしたと考えられます。

抜歯
前歯の一部を人為的に除去するもので、成人の儀礼と考えられます。

土坑
人の手によって掘られた穴の総称。このうち土坑に直接遺体を埋葬したものを土坑墓といいます。

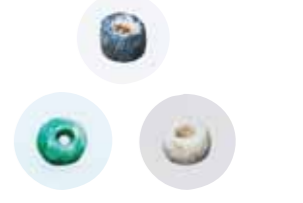
縄文人とアクセサリー

貝塚からは、サルの橈骨製の耳飾りや小玉といったアクセサリーも出土しています。平成16年度調査土坑1、2から出土した小玉も埋葬人骨に伴うものであったことから、耳飾り同様に副葬品であったと考えられます。

なお、鳴神貝塚から出土したヒスイ製の小玉は新潟県糸魚川産であり、鳴神貝塚の人々が様々な形で幅広い交流を持っていたことを物語っています。



サルの橈骨製耳飾り



(上：土坑2出土、右下：土坑1出土)
(左下：包含層出土(ヒスイ製))